

平成30年4月から計画期間がスタートしています
第3次のおがた男女共同参画プラン

「のおがた男女共同参画プラン」は、国の「男女共同参画社会基本法」(1999年)にさきがけ、策定され、**性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮し誰もが自分らしさを発揮することのできる社会 = 男女共同参画社会**の実現に向け、市の実施するあらゆる分野の事業に対して、男女共同参画の視点を持って取り組むための基本計画となっています。

プランの計画策定期間を前期5年・後期5年の10年間とし、計画期間終了を迎えるごとに市民意識調査や企業・事業所調査を実施、その結果から見えてくる現状を把握し課題を解決すべく、プランの見直しを実施し、平成30年3月に第3次のおがた男女共同参画プランが完成しました。

第3次のおがた男女共同参画プランは、センターで閲覧できるほか、直方市のホームページでもご覧いただけます。

第3次プラン
3つの目標

目標Ⅰ すべての世代における男女共同参画の意識づくり

私たちの生活に根付いている性別役割分担意識(男は仕事、女は家事)をなくし、家庭や地域、職場などの市民生活を男女がともに担うための意識啓発や、男女共同参画に対する理解を促進するための教育を実施します。

目標Ⅱ 誰もが安心・安全で住みよい地域社会の実現

重大な人権侵害である男女間の暴力や各種ハラスメント、社会的少数者や弱者に対する差別や偏見を社会全体が許さないといった意識の醸成と、迅速な被害者支援の取り組みを強化します。また、生涯を通じた男女の健康支援と、地域社会における男女共同参画を推進します。

目標Ⅲ 性別によらず個性や能力を発揮できる環境の構築

誰もが自分の個性を活かし、能力を伸ばすことにより、行政や企業など社会の意思決定の場において良好で対等な関係を保ちながら、明るい社会を築くための環境整備を、市民や事業者などとともに進めます。

西日本新聞コラム
「アンちゃんの日本GO」
好評連載中



2月26日(火)開催決定!!
アン・クレシーニさん講演会
“アンちゃんから見るニッポン”

ブログ「アンちゃんから見るニッポン」。そのあまりのおもしろさから人気に火がつき、現在テレビ・ラジオに引っ張りだこの北九州市立大学准教授アン・クレシーニさんの講演会を開催します。

ばりばりの博多弁で語る日本とアメリカの文化の違いをテーマにしたアンさんの講演会は、県内各地で大人気!

参加は無料ですので、ぜひご参加ください。

会場：中央公民館 第3学習室
 時間：午後7時～8時30分

定員100人
 申込不要

問い合わせ：直方市男女共同参画センター (TEL 25-2244)

第46号

えみくるだより

「えみくる」シンボルマーク
 直方市のイニシャル「N」をモチーフに男女(人)と共同(助け合い)を表現しています。また、3つの丸は、男女共同参画社会の実現を目指し、市民を中心に企業と行政が力を合わせていくことを表しています。

**第22回のおがた男女共同参画フォーラムにご来場いただき
 ありがとうございます**

12月2日(日)に、中央公民館で第22回男女共同参画フォーラムを開催しました。

今回のメインテーマは、「**男女が共に輝くための2つの視点**」

午前中はパネルディスカッション & ワールドカフェ「女性意思決定の場にあることで何が変わるのか」が、直方男女共同参画「夢ネット」主催で開催されました。福津市の松田副市長、アスカコーポレーション(株)の大串理絵さん、直方市の三原副市長の3人から現在の役職について経緯、実感している変化、今後の目標を話していただいた後、各テーブルで「私は何を变えたいか」について、意見を申し合いました。

午後からは、家事シヤーナリストの山田亮さんによる講演会「子育てで差がつくー家庭田舎暮らし術」が開催されました。共働きの家庭が増加する現在の日本において、どちらか一方に家事や育児が偏るのではないよう、男性でも取り組みやすい家事の実例を分かりやすく紹介していただきました。

今回のフォーラムでは、子育て中の女性が出店者の半数以上を占める「HANAMARU」も同時開催。これまでフォーラムではあまり見かけることのない若い世代に、フォーラムを知ってもらう大変有意義なイベントとなりました。



**男女共同参画
 マメ知識**

グローバル・ジェンダー・ギャップ指数(GGI)を知っていますか?

—日本の順位は**110**位(149カ国中、2018年)—

グローバル・ジェンダー・ギャップ指数(2018年) 世界トップ10

国	スコア
1 アイスランド	0.858
2 ノルウェー	0.835
3 スウェーデン	0.822
4 フィンランド	0.821
5 ニカラグア	0.809
6 ルワンダ	0.804
7 ニューージーランド	0.801
8 フィリピン	0.799
9 アイルランド	0.796
10 ナミビア	0.789

世界経済フォーラム(WEF)が毎年発表しているグローバル・ジェンダー・ギャップ指数。これは、男女格差の度合いを示す指数として用いられます。経済、教育、保健、政治の4分野14項目のデータを基に各国の男女の格差を分析した指数となっており、その指数が「1」に近づけば近づくほど男女平等、遠ざかるほど男女格差があると評価されます。

平成30年12月に発表された世界ランキングで**日本は110位(スコア0.662)**となり、昨年過去最低を更新した114位より若干の改善はみられたものの、依然として主要先進7カ国(G7)では最下位です。

日本が低い順位にとどまっている主な理由は、経済と政治の分野のスコアが著しく低いことです。経済は117位(スコア0.595)、政治は125位(スコア0.081)となっています。

数値の改善だけを求めるわけではありませんが、グローバル・ジェンダー・ギャップ指数を知ることによって日本の現状を理解し、改善に向けて行動することが、男女共同参画社会実現への第一歩になるかもしれません。